

令和4年度 県立那珂湊高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	豊かな教養と人間性を育み、地域の未来を担う人材を育成する学校 ①何事にもチャレンジする精神の涵養 ②創造力・企画力・説明力の育成 ③世界を視野に地域貢献 ④21世紀型スキルの育成					
【21世紀型スキル：これからの変化の激しい社会に主体性を持って参画し、自ら課題を見つけ、創造的にその課題を解決できる能力等のこと】						
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達 成 状 況	
○成果 ・学力向上推進総合事業や校内研修における授業改善の取組により、わかる授業を展開している。 ・校内研修等を通して、ICTを活用した授業への取組が活発化し、教職員のスキルアップにもつながっている。 ○課題 ・コロナ禍における本校の取組についての発表活動の工夫、外部からの更なる理解を図るための発信の工夫が必要である。 ・基礎的・基本的な学力の習得と自主的、主体的な学習習慣の確立 ・部活動の活性化と定着率の向上 ・自転車乗車マナーの指導徹底		実践的な学びの深化	ア 基盤としての基礎学力を定着させる。 ・教員の指導力の向上：教科会や公開授業、校内研修等の積極的実施 ・授業時間の確保：行事の精選と実施方法の見直し、チャイム授業開始 ・多様な学習形態の研究と実践：少人数指導、T T、I C T活用等 ・家庭学習時間の確保：適切な学習課題等 イ 大学、企業、地域等と連携した取り組みを強化する。 ウ 体験活動や課題研究等の全員実施（参加）を推進する。		B	
		特別活動の活性化	アイウエ 部活動・生徒会活動等への積極的参加を促し、生徒主体の活動を推進する。 適切な人間関係の構築とコミュニケーション能力の向上を図る。 家庭、地域と連携・協力し、開かれた学校づくりをする。 キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施していく。		B	
		体系的な進路指導	アイウ 3年間を見通した計画的な進路指導により、進路意識を高揚させる。 社会体験等を通して、職業観・勤労観を育成する。 個別指導等を充実させ、多様な進路希望に対応する。		B	
		生徒指導の充実	アイウエ 生徒一人一人の自己有用感を高揚させる授業づくりや集団づくりをする。 登校指導や校内見回り等により、問題行動の未然防止に努める。 保護者との連携を図り、より良い生活習慣や規範意識を身に付けさせる。 「道徳」の授業を要として、教育活動全体を通して道徳心を涵養する。		B	
		働き方改革の推進	ア 校務の精選と役割の明確化を図り、勤務態勢の適正化に努める。		B	
三つの方針		具体的目標			評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○豊かな教養と人間を身につけ、地域の未来を担う人材 ①何事にもチャレンジする人材 ②21世紀スキルを身につけ、世界を視野に地域貢献できる人材 ③創造力・企画力・説明力を身につけた人材			B	B 対話を柱としたワークショップを、教員、生徒とも継続的に実施し、学校の役割と目指す生徒像に迫る活動を行う。 目指す学校像に迫れるよう、本校の存在意義を問い直し、教育課程の点検、評価を行っていく。 何事にも朝鮮できる、地域とともにある学校としての活動をさらに推進していく。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①主体的な進路学習や勤労の貴さ、創造の喜びを体得させ、地域産業に寄与できる社会人を育成する。 ②部活動や学校行事等の活性化を図り、総合的な人間力を向上させる。 ③充実した学習環境を提供するとともに探究的な学びを推進し、生徒が自主的に学習に取り組む態度を育成する。			B	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○やりたいことを見つけて挑戦しようとする生徒			B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教 科	国 語	基礎的な国語能力の向上を図る	漢字学習の時間を積極的に設け、小テストや定期テスト、漢字検定試験を通して漢字の基礎力を高める。	A	B	・読書の時間を設け読書に興味を持たせることができた。進路との連携を強化し効果的な指導がしたい。 ・漢検受験者数を増やしたい。年2回は実施できるようにしたい。
		読書の時間を設け、生涯にわたって読書に親しむ習慣を身に付けさせる。		A		
		学習習慣を定着させる	ノート・プリント・問題集を定期的に点検し、学習の習慣を身に付けさせる。	A		
		進路目標の実現のための国語力の向上を図る	新聞記事を活用し、社会の出来事に対する自らの考えを深めさせる機会を増やす。	B		
			進路対策用ワークや進路に対応した作文・小論文の指導を行うなど、進路に直結する国語力向上のための機会を充実させる。	B		
	地 歴 ・ 公 民	基礎学力の向上を図る	中学時の学習内容とその習得の度合いを確認し、知識や理解の程度を把握しながら、基礎学力の定着を重視した授業を展開する。	A	B	・基礎的内容を重視して授業を展開することが出来た。 ・ICTの活用は試みたが興味関心を喚起することに留まってしまった。
		基本を理解させ生徒の興味・関心を喚起する授業を目指す	視聴覚教材の活用や、授業における言語活動等を通して、生徒の興味・関心を喚起しつつ、思考力と表現力を育成する。	B		
	数 学	基礎学力の定着を図る	放課後の課外やテスト前の補講を利用して反復練習を行い、進学・就職試験に対応できる基礎学力を定着させる。1年生・2年生では習熟度別学習を行い、基礎的な計算能力を身に付けさせる。	B	B	・進路に合わせて計画的に課外を実施したい。また振り返りを含め、単に提示する以外のICT活用場面を増やし、基礎学力の定着に引き続き力を入れていきたい。
		授業指導技術の向上を図る	グラフや図形など視覚的に捉えさせる学習内容において、ICTを用いて授業を行いながらICTの活用方法を学び、授業力の向上を図る。1年生・2年生にはchrome bookを積極的に活用させられるよう、活動内容を工夫していく。	B		
	理 科	知識及び技能の習得と活用	日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感させる。また、獲得した知識を活用する場を与え、より理解を深めさせる。観察、実験等を取り入れ、生徒自らが探究の過程を通して、それらの技能を身に付けるようにする。	A	B	・説明の時間が長くなってしまったため、実験以外の座学でも、生徒が頭を活性化させる時間を増やしていきたい。 ・ICTについても、今年度以上に技術を身につけ、毎回の授業が充実したものになるようにしたい。
		思考力、判断力、表現力等の育成	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもった観察・実験を行わせる。実験結果や資料等から考えられることを、生徒自らの力で論理的に導き出し、表現できる力を身に付けさせる。	B		
		学びに向かう力、人間性等の醸成	生徒の学習意欲を喚起し、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を育てる。ワークシートに学習前後の自己の変容を記録させ、粘り強く学習に取り組む態度と自らの学習を調整する力を身に付けさせる。	B		
	英 語	基礎学力の向上を図る	コミュニケーション活動に重点を置きながら、既習内容の復習を取り入れた授業展開を行う。	A	B	・ワークシートを工夫することにより、学び直しを意識した授業の展開をすることができた。一方では理解が不十分で、さかれば、基礎学力が定着されていないことが課題となっている。
		異文化理解を深める	実用英語技能検3級以上の受検を促し、個別指導や課外等での受検支援を行う。	A		
		個々に応じた学習支援を行う	ALTの積極的活用、ブリティッシュ研修や、オンラインを利用したハワイ研修の積極的参加を促し、異文化理解を深める。	C		
			課外や個別指導を行うとともに、授業内ではワークシートを工夫することで生徒の理解を深めさせる。 定期的な課題出題を行うことで、家庭学習の習慣を身に付けさせ、生徒の学習習慣の状況を把握する。	A B		
	保 健 ・ 体 育	学びに向かう力・人間性の育成	毎時の集団行動を通して、集団の中の一人としての自覚を持たせる。また、ルールやマナーを大切にするとともに、健康・安全を確保し、主体的に授業に取り組ませる。	A	B	・集団行動を通して、ルールやマナーを大切に活動することができた。主体的に活動することや他者と協力して活動することに課題が残る。ICT機器は積極的に活用することができたので今後も継続したい。
		体力・技能の向上	生徒の体力・技能のレベルに応じて、各種目の学習方法の工夫改善に努め、体力・技能の向上を図る。	B		
		心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成	学習形態・教材の工夫やICT機器を活用し、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、健康についての自他や社会の課題を発見し、解決に向けて考え、判断する能力を育成する。	A		

家庭	基礎知識・基礎実践力の定着	自分の人生について考え、自立した生活のために必要な知識と技術を習得させ、実生活に役立つようにする。	A	A	・実習が遅れた生徒に対し補講を実施しているが、一部全く参加しない生徒への対応。消費者教育については、他教科と連携をした方が効率的なので、今後検討したい。
	実習・実技学習への意欲的な取り組み	生徒同士が密にならない工夫をした上での実習や実技を通して、生活に密着した知識と技術の習得を目指す。また、ホームプロジェクトを通して、身近な課題解決をする実践力を身につける。	A		
	消費者教育の実践	18歳成人を踏まえ、自ら主体的に判断し、適切に行動できる消費者となるための知識を習得する。	A		
音楽	知識・技能の習得	音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽表現上の働きと関わらせて理解できるようにする。	B	B	・音楽を表現するための知識や技能が理解できるような教材の工夫をする。 ・ICTを活用した授業が展開できるようにする。
		曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりや音楽文化の多様性について理解させる。	C		
	思考力・判断力・表現力等の育成	音楽表現を創意工夫したり、音楽を価値判断しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりする力を育てる。	B		
	学びに向かう力・人間性の涵養	音楽の学習に主体的に取り組むことができるよう、ICTを活用した教材なども取り入れ、幅広く音楽を愛好する心情が育つようにする。	B		
	書	書写能力の向上を図る	B	B	・ICTをより積極的に活用し、効率よく理解しやすい授業の展開に努める。 ・授業で制作した作品を学校内外で発表し、広く成果を共有する。 ・教科横断的な授業を展開し、生徒の興味関心や学習意欲の向上に努める。
		表現の能力を高める	B		
	道	用具・用材・用筆・運筆の特徴とその違いについて理解し、幅広い表現の仕方を学ぶ。	A		
		日本・中国の古典について、理論(歴史的背景・成立経緯・筆者・書写内容)及び技術(古典の特徴・運筆時のポイント)を理解させ、臨書作品の制作を行いその成果をあらわす。	B		
		鑑賞の能力を高める	A		
		書道作品の鑑賞方法について説明を行い、基本的なマナーを習得させる。	B		
	情報	地域貢献に向けた授業の展開と実践	B		
		「学び」を授業だけにとどめず、地域貢献に役立てられるよう生徒の想像力、創造力、判断力が育成できる授業の展開と実践を行う。	B		
情報	情報モラル、課題の発見・解決力の育成	生徒が各1台所有している、スマートフォンやChromebookなどネットワーク機器の適切な利用方法について学習するとともに、情報モラルの理解や課題の発見・解決など、情報社会に生きる力を身につけさせる。	A	A	・デジタル端末を使用することで、ノートやプリントへの記述を苦手とする生徒が増えた。デジタルとアナログを使い分ける必要がある。 ・今後も、プログラミングやシミュレーション等の指導を継続したい。
		情報活用実践力の育成	B		
	新学習指導要領実施にともなう指導法の研究	新学習指導要領の実施にともない、「情報Ⅰ」の教育内容である、プログラミング、モデル化とシミュレーション、ネットワークなどについて、生徒が理解できるように指導法について研究を進める。	A		
	商業	学習方法の理解を図る	B	A	・積極的にチャレンジする体制づくりを進め、キャリア教育の理解に努める。 ・体験実践型の学習を通して、地域課題をビジネス視点で捉え、学ぶ意欲の向上に努める。 ・個別最適な学びとして、積極的に科目横断的な学びを展開する。
		授業改善を図る	A		
		授業時間の確保に努める	A		
		体験型授業を推進する	A		
		地域貢献等への積極的な参加を図る	A		
		広報活動を充実させる	A		
業		毎年、実践報告書を発行し、中学生体験入学及び企業訪問などで商業学科における活動内容について広く情報提供を行う。	A		
		学校マーケティングを意識し、生徒が取材活動を行ない、企画、情報発信力を身につけさせるよう努め、生徒による情報発信SNS等を活用した広報活動を実施する。			

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	授業時間の確保と学習評価法の研究	出張・年休等における授業時間の振り替えを徹底し、填補を教科内で行うことにより、授業時間の確保と授業の質を向上させる。また、「チャイム開始」「チャイム終了」を厳守した授業を行う。新教育課程に対応した授業評価と観点別学習評価の方法や総括の方法等について研究を継続して行う。	A	A ・出張・年休等における授業の確保、生徒の「学びの保証」を継続したい。 ・観点別学習評価の実施方法について継続的に研究したい。 ・学校案内やポスターの作成や学校説明会の内容等を検討し、広報活動を充実させたい。 ・Googleドライブの共有・職員室の大型モニタ等を活用して、教員の働き方の改革を進めたい。 ・コロナ禍において、中止となった、公開授業の実施に向けて検討する。
	広報活動の充実	みらい創造部・図書情報部等と連携し、学校案内パンフレットやWebページ等の広報の工夫や改善を行い、中学生・保護者・地域住民等への広報活動を充実させる。	A	
	学習指導法の工夫改善	新学習指導要領に合わせたシラバスの充実を図る。	B	
		教員対象の研修会・公開授業のほか、保護者・地域に対する公開授業を計画し、指導法の工夫改善に努める。	B	
		図書情報部と連携し、Chromebook等ICT機器の活用方法を研究し、授業での利活用を図る。	A	
	新しい授業のあり方の研究	コロナ禍における、生徒への「学びの保証」をするため、同時双方向性のオンライン授業やコンテンツの活用など、ICT機器等を活用した新しい授業のあり方を研究する。	A	
	オンラインや情報機器を活用した働き方改革	Googleドライブの共有・職員室の大型モニタによる教員の情報共有・オンラインを利用した職員会議の実施など、ICTを活用し業務改善に務める。	A	
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立と規範意識の涵養	遅刻カードの活用、チャイム着席指導等を通して、時間を守る習慣を身に付けさせる。	B	B ・規範意識の涵養に関して、服装・頭髮指導においては、学年間の指導内容の共通理解に課題が残る。 ・交通安全教育の推進に関して、4月からの道交法改正(自転車運転者のヘルメット着用義務化)などへの対応が課題である。
		登校指導や頭髮服装指導、職員室入室時の礼法等を通して、挨拶・服装・言葉遣い等のマナーの向上に努める。	B	
	問題行動の未然防止・早期発見	本校のいじめ防止マニュアルに沿い、情報の共有といじめの未然防止・早期解決に努める。	B	
		スマートフォン等の正しい使用・マナーについて指導し、SNS上のトラブルや事故を未然に防ぐ知識と環境づくりを進める。	B	
	交通安全教育の推進	交通安全講話や自転車安全点検及び街頭見守りや交通安全キャンペーン等を通じて交通安全に関する意識の向上を図る。	B	
進 路 指 導	進路学習の推進	進路ガイダンスや学校見学、インターンシップ等を計画的に実施して、生徒が自己の進路について考える機会や場を充実させる。また、基礎学力診断テストを利用して、進路実現に必要な国数英の学力を身に付けさせる。	B	B ・コロナの影響に柔軟に対応し、各学年と連携し進路行事を実施するに当たって、早期から進路目標意識を高めさせるため、3年間を通じたキャリア教育プランを研究し続けていく。
	進学支援の充実	早期から学校研究を行い、自分に合った学校に進学できるように面談等の指導を行う。大学・短大・看護医療系進学希望者を対象に模擬試験を実施し、受験への意識付けを図る。あわせて奨学金制度等について、保護者への情報提供を行う。	B	
	求人開拓の継続	積極的に企業訪問を行い、本校への求人を継続してもらおう。また、外部団体と積極的に交流して、新規立地企業や将来有望な産業についての情報収集や研究を行う。	B	

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動や各行事で生徒主体の活動を推進する。	A	B コロナ禍に対応しつつ、生徒会を中心に予定して実施する活動ができた。生徒のニーズに合わせた活動を展開し、活性化することができた。
	学校行事の充実	コロナ禍でも学校行事が実施できるよう、計画的に準備を行うとともに、内容についても工夫する。	A	
	部活動の活性化	魅力ある部活動を展開することで生徒の意識・意欲を高め、部活動加入率と定着率を高める。	B	
		部活動顧問が連携して指導にあたり、学年・特活部が支援する。	A	
	キャリア・パスポートの有効活用	キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施する。	B	
保健厚生	学習環境の整備	整備委員会の活動を活性化し、全生徒による清掃を徹底させ、校内の美化に努める。	A	A 緊急時メールの加入率は、図書情報部の協力のもと、1年生に関しては98%とすることができた。活用することはなかったが、今後、緊急時はもちろん、保護者との連絡等でも活用していきたい。
	災害への迅速な対応	緊急時メールを確立させ、保護者等との連絡網が緊急時に機能できるようにしておく。総合防災訓練を行い、火災や地震、原子力災害時の人的・物的被害を軽減できるようにする。	B	
	健康教育の充実	学年ごとに性教育・禁煙教育・がん教育の講話、応急手当講習会を実施し、身体の大切さを認識させ、健康への意識を向上させる。	A	
	教育相談体制の充実	校内で教育相談を実施するとともに、多様な問題を抱える生徒への対応を図るため、専門家の支援による教育相談体制を充実させる。	A	
図書情報	GIGAスクールに向けての環境整備、指導体制を図る。	GIGAスクールの実現に向けて、校内のネットワーク、電子黒板などの環境整備を図り、第1・2学年の全生徒がChromebookを学校生活で活用できる場面づくりを推進する。また、全学年の生徒を対象にBYOD（個人所有端末の持込）ができる体制づくりを推進するための環境づくりやIT機器の利活用の教員研修等を計画的に実施する。	A	B ・生徒の1人1台端末も1・2年と広がり、あらゆる場面で活用を推進することができた。 ・学校説明会やその後の保護者面談等において、を緊急情報メールの加入率を高め呼びかけ、加入率を高めることができた。 ・図書委員の活動機会を増やし、図書室の活性化につなげていきたい。 ・ICT機器を活用した、授業作りや学習のあり方を今後も考えていきたい。
	情報発信の推進	Webページ等を活用して、学校からの情報を地域住民や中学生に積極的に発信できる体制を推進するとともに、緊急情報メール・掲示板・Classroom等を活用し、緊急事態に生徒や保護者に情報が伝わる体制づくりを推進する。	A	
	図書室の環境整備を図る	コロナ感染症対策を十分にを行い、生徒の学習や読書のできる環境整備を図る。また、校内に居場所のない生徒が利用しやすい雰囲気作りを推進する。	B	
	図書委員会活動の活性化	図書委員会の活動を通して、図書の貸出・返却がスムーズに行える体制作りを行うとともに、生徒自ら、新着図書の案内・図書の選定や図書室の装飾などの環境づくりが行えるように働きかける。	B	
	視聴覚室の整備	視聴覚室、視聴覚機器の整備・保守を行い、生徒・教員が興味の持てる、映像ソフトウェアの選定・購入を推進する。	A	
渉外	生徒が充実した学校生活を送れるような協力体制作り	新しいPTA事業のあり方を考え、生徒がより充実した学校生活を送れるような体制作りを努める。そのために、保護者とのコミュニケーションを図りながら、相互の理解を深める活動を行う。	B	B ・学校と家庭、地域の連携により、生徒の充実した学校生活の体制作りとなるように努める。 ・ICT環境を活用した、PTA事業の実践を考え工夫し、コロナ禍における活動を充実させる。
		さわやかマナーアップ運動や朝の挨拶運動を実施することによって、生徒を見守る保護者と教員の体制を充実させる。	B	
	保護者のPTA活動への参加促進	広報・研修・生徒指導の各委員会や支部会の運営等、委員長や評議委員を中心に保護者が興味や関心を持って取り組める活動を工夫する。支部組織である体制を強みに、地域のつながりを大切にしながら、一人でも多くの参加を促す。	B	
	地域や近隣の学校との協力・連携の強化	学校を取り巻く教育的環境整備・危機管理体制を強化する。	A	
みらい創造	生徒の創造的な活動と協力した広報活動	教務部と連携を図りながら、学校案内パンフレット等を作成し広報活動を充実させる。また、生徒と共に活動しながらストーリーングメディアを活用した広報を充実させ中学生・保護者・地域へ本校の取り組みを知ってもらう。	B	B ・新型コロナウイルスに対応しつつ本校の特徴である「販売実習」や「商品開発」等を生徒主体で行うことができるようになってきた。 ・様々な研修会を行ったり、全体ミーティングを行
	企業等との連携・連絡	本校の特徴的な取り組みである、「販売実習」や「商品開発」等を企業と連携して取り組めるように、連携企業を開拓したり連絡調整をする。	A	
	教員の授業改善をサポートする環境整備および業	教務部・図書情報部と連携し、教員が授業中に利用可能な環境を整備し、研修会を実施する。また、働き方改革に対応できるようにICTを取り入れた業務改善を提案する。	A	

	務改善	生徒が主体的・対話的な深い学びができるような授業を展開できるよう校内研修を行う。	B	ったりするなどして働き方、ICT 活用促進、生徒主体の授業を進めることができたので継続する。
--	-----	--	---	--

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 学年	高校生としての自覚と基本的生活習慣の確立 基礎学力の定着と課題解決能力の育成	家庭との連携を密にし、生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう支援する。	B	B ・1/7 指導の対象生徒が約15%いた。基本的な生活習慣の確立および授業に取り組む姿勢を向上させる。 ・集団意識の向上および社会性の育成。 ・面談等を通し、生徒理解の深化および信頼関係の構築をする。
		学校の規律を守り、集団生活におけるマナーを身につけるための支援をする。	C	
		家庭学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	C	
		自発的学習に向かうよう、ICT 機器等を活用した環境作りを行う。	B	
		進路ガイダンスや就職セミナー、オープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路情報を主体的に収集する態度を育成する。	B	
	互いに認め合い、高め合う集団の育成	授業や個人面談などを通じて、進路目標を持てるような指導を持てるような指導をする。	B	
		豊かな人間関係作りができるよう、ホームルーム活動や学年間の交流を密にし、思いやりや仲間意識を育てる。	C	
2 学年	基本的な生活習慣の確立 規範意識の定着と学習指導 基礎学力の定着と学習指導	自ら考え行動できる主体性を身につけさせる。	B	C ・普段の学習に対する取り組み方の見直しと、基礎力診断テストの受験率の向上。 ・最学年及び進路決定期を常に意識した生活習慣の定着。服装の乱れを防止し、相手と接する際のマナー向上。
		体調管理の意識を高め、欠席や遅刻を減少させる。	C	
		集団におけるルール必要性を理解させ、身だしなみ、時間厳守等の徹底をはかる。	C	
		学力を伸ばすための学習法を考えさせる機会を与え、学年の半数の生徒を GTZ (3 科目総合) で C ライン以上を目指す。	C	
	進路に関する意識の育成	苦手科目のある生徒を積極的に支援する。	C	
		早い時期に自分の進路に方向性を持たせ、学校生活における中だるみを防ぐ。	C	
3 学年	進路希望の実現	ONE-WEEK や基礎力診断テストを通して、自分の学習定着度を認識させる。	D	C ・3 学期 10 日以上欠席者の割合が 44.1%であった。 ・生徒にとって学校に来ることと得られる経験や価値が弱まっている印象を受けた。魅力ある行事やイベント、学習機会を全員で見直す必要がある。
		生徒が自ら考え、行動できるマインドを育て、保護者をとの連携をとりながら生徒の進路を実現させる。また進路決定後の準備に対しても充実した指導を目指す。	B	
	体験をとおした自己発見	オープンキャンパスや会社見学などへの参加などにより、自分の希望する進路先に関する情報を収集、比較検討し、進路実現に向けて自主的に行動できるようにする。	B	
		進学や就職のための試験を見据えた基礎学力の定着を、各教科の授業担当者と連携しながら継続的に行う。	C	
	社会人になる事を見据えた生徒指導	外部との連携や体験をとおし、働く意義や学ぶ意欲を育てる。また、学びの共有から他者への理解・将来に向けた自分の生き方について考える機会を提供する。	B	
		豊かな人間関係作りができるよう、ホームルーム活動や学年の交流を密にし、思いやりや仲間意識を育て、変化の早い社会に対応できる柔軟性を身に付ける。進路決定後は社会人としての意識を持ち、責任感や生きがいついて自身と向き合う。	D	

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない